

法学部

岡崎 頌平先生推薦

『判例講座 刑事訴訟法 (公訴提起・公判・裁判篇)』

**川出 敏裕著
(立花書房)**

本書は、東京大学大学院法学政治学研究科教授である川出敏裕先生の手になる「それぞれのテーマに関する重要判例をできるかぎり詳しく紹介するとともに、その内容を分析し、解説することに主眼を置いている」本である(はしがき参照)。

川出先生は、刑事訴訟法と刑事政策を専門とされ、共著ではあるが『刑事政策〔第2版〕』(成文堂・2018)や、今回推薦する「公訴提起・公判・裁判篇」の前に『判例講座刑事訴訟法〔捜査・証拠篇〕』(立花書房・2016)を公刊されている(なお、両者ともに、本学図書館にすでに所蔵されているので、関心のある学生の皆さんにはそちらもあわせて推薦したい)。また、『少年法』(有斐閣・2015)も単著として公刊されるなど(これも本学図書館に所蔵されている)、刑事法学の第一線で活躍されている。

さて、本書の構成であるが、公訴提起、公判および裁判の部分を全12講に分け、冒頭で引用したように、毎回扱うテーマに関連した重要判例を採り上げて、それについて解説を加えていくというスタイルがとられている。例えば、第1講であれば、「公訴権の運用と規制」というタイトルのもとに、公訴権濫用論に関して、最決昭55・12・17(刑集34・7・672)を挙げて、それについて解説している。したがって、刑事訴訟法を理解する上で判例を理解することが特に重要であることに鑑みれば、本書のように、重要判例の分析や解説を丹念に行ってくれる文献は、まさに刑事訴訟法の学習者にとって必読のものといえよう。